

2022 年度 武蔵野学院大学 履修の手引き

目次

1. 単位について	4
1) 単位の数え方	4
2) 履修できる単位数の上限	4
3) 履修制限について	4
2. 授業について	5
1) 授業の時間割	5
2) 授業科目の区分について	5
3) 休講と補講について	6
4) 授業を欠席するとき	6
3. 定期試験を受けるとき	7
1) 定期試験を受けるときに注意すべきこと	7
2) 追試験について	7
3) レポートを提出するとき	8
4. 成績について	8
1) 成績の評価	8
2) 保証人への成績送付について	8
3) 成績に関する問い合わせについて	9
5. GPA について	9
6. 卒業・学位授与について	10
資料	11

・ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	11
・カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）	12
・アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）	13
・アセスメント・ポリシー	14
・ナンバリング コード	18
・履修系統図	25

履修の手引きの位置づけについて

新年度当初に配布された『学生便覧』とは、大学のルールや心得、免許・資格に関することや履修や卒業の要件などが書かれているものです。『学生便覧』は毎年作成され、皆さんに配布されます。本学ホームページでも、『学生便覧』をダウンロードすることができます (<https://www.musashino.ac.jp/mgu/learning/>)。本手引きは、『学生便覧』を補足することを目的に作成されていますので、『学生便覧』と合わせてお読みください。

1. 単位について

大学では授業の方法に応じて、各授業科目の「単位」が決められており、その授業の成績評価が「C」以上が合格となり、「単位」が与えられます。

1) 単位の数え方

1 単位は、1 授業科目につき 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成されるのが標準です。

2) 履修できる単位数の上限

履修できる単位数の上限は、1 年間で 50 単位です。この上限は、教育課程表に記載のある科目のみに適用されます。つまり、卒業要件に含まれない「教員免許状(英語科)」や「日本語教員資格」にのみ係る科目は含まれません。なお、4 年生については、教務部長の許可により上限を越えて履修登録をすることができます。

3) 履修制限について

中国語、韓国語、フランス語そして日本語の授業は、各言語を母語として使用している学生は、原則、履修できません。

履修制限される該当科目：中国語Ⅰ、中国語Ⅱ、中国語Ⅲ、中国語Ⅳ

韓国語Ⅰ、韓国語Ⅱ、韓国語Ⅲ、韓国語Ⅳ

フランス語Ⅰ、フランス語Ⅱ、フランス語Ⅲ、フランス語Ⅳ

日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ

上記の授業は、原則として授業科目名についているローマ数字（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ）の順で履修する必要があります。つまり、「Ⅰ」の単位が与えられていない状態で「Ⅱ」を履修することは基本的にはできません。すでに該当レベルに達していることが示せるエビデンスがあれば上位レベルの授業科目を履修できることもありますので、教務部にお問い合わせください。

2. 授業について

本学の授業は、前期と後期に分けて行われています。

前期 4月1日から9月20日

後期 9月21日から3月31日

1) 授業の時間割

授業は、90分を1授業時間として行われます。

第1時限	8：50～10：20
第2時限	10：30～12：00
第3時限	12：50～14：20
第4時限	14：30～16：00
第5時限	16：10～17：40
第6時限	17：50～19：20

* 年度始めに、前期分・後期分を印刷した授業時間割表を配布します。本学ホームページでもダウンロードすることができます (<https://www.musashino.ac.jp/mgu/learning/>)。

2) 授業科目の区分について

授業科目は、いくつかの考え方により区分することができます。一つは基礎科目、専門科目、専門ゼミ科目という区分です。それぞれに卒業するまでに必要な単位数が異なっているので、計画的に履修するときのポイントの一つになります。

基礎科目	社会全体の価値観の多様性を理解する内容です。
専門科目	専門的な内容を学びます。
専門ゼミ科目	専門的な内容を少人数で学びます。

また、もう一つの分け方として、必修科目と選択科目があります。必修科目は、卒業するまでに必ず単位を取得する必要があります。選択科目は、多くの科目の中から選んで履修する科目になります。

3) 休講と補講について

○休講とは

大学や先生の事情によって授業が休みになることを休講と言います。休講の際は、Musashino Academic Station（以下、MAS）で確認できます。また、教務部掲示板にも掲示されます。こまめに確認しましょう。

○補講とは

授業が所定の回数に足りない場合などは、正規の授業時間とは別に日時を決めて授業をおこなうことがあります。これを補講と言います。日時・教室等は、MAS で確認できます。また教務部掲示板にも掲示されます。

4) 授業を欠席するとき

授業はすべて出席してください。遅刻や早退は三回で欠席一回として計算されます。しかし、やむを得ない事情で欠席する場合も出てきます。そのときは、公欠の手続きをしてください。

公欠理由により該当する部署に、公欠を証明する書類等を用意してください。その部署にある公欠届に必要な事項を記入し、証明する書類と一緒に提出して下さい。

なお、新型コロナウイルス感染症の感染が疑われる場合は、「新型コロナウイルス感染症対応マニュアル（学生用）」の7、8頁をご参照ください。

公欠理由	角印又は部署印を捺印する部署など
・就職に関すること	学部就職部
・教育実習や介護体験に関すること	教職センター
・クラブ関係、アテンダント関係、学内外等への学生派遣(入試関係等)に関すること	学生部
・留学に関すること	国際センター
・忌引	教務部
・インフルエンザ等による出席停止	保健室
・海外研修	国際センター

3. 定期試験を受けるとき

授業科目の成績評価には、定期試験が含まれることがあります。試験期間は『2022 年度学生便覧』の教育計画（17 頁）で確認できます。定期試験の時間割は試験期間初日のおおよそ 10 日前に教務部掲示板に掲示します。

1) 定期試験を受けるときに注意すべきこと

- ・定期試験には、「学生着席時間（試験開始時刻 10 分前）」と「試験時間」があります。学生着席時間までに指定された座席に着席して試験を受ける体制を整えてください。「学生着席時間」から、試験についての確認や、問題用紙等の配布を行います。
- ・試験を受けるときは、机の上に学生証を置いてください。万が一、忘れてしまった場合は学生着席時間の前に学生部で仮学生証を発行してもらってください。
- ・どの試験も机の上には、鉛筆（シャープペンシル）、消しゴム、鉛筆けずり、メガネのみを置くことができます。また、スマートフォンやウェアラブルウォッチ等の通信機能のある機器は電源を切り鞆にしまいます。服のポケット等に入れている場合は不正行為と見做す場合があります。
- ・授業科目によっては、机の上に教科書やノート、プリントを置くことを許可する場合があります。机に出せるものは、各授業科目担当の先生から事前に申請があったもので、定期試験の時間割で確認できます。
- ・遅刻することが分かった場合は、試験が開始される前に教務部に連絡をしてください。なお、試験開始から 30 分後が遅刻限度時刻となります。遅刻限度時刻までに入室ができた場合は受験を認めますが、試験時間の延長はしません。また、遅刻限度時刻を過ぎた後の入室、受験はできません。交通機関等の遅れが出る場合がありますので、試験日については特に余裕を持った通学を心掛けましょう。
- ・不正行為があった場合は、その授業科目の評価は零点とされ、学則により処分されます。

2) 追試験について

忌引や病気、事故等学生本人の責任ではないやむを得ない事情により定期試験を受験できなかった場合は、追試験を受けることができます。追試験を受けるためには、出席

できなかった理由を証明する書類（診断書等）の提出が求められます。まずは教務部に申し出てください。

3) レポートを提出するとき

授業科目によってはレポートの提出を求められます。提出方法は2種類あります。各先生に直接提出する方法と MAS により提出する方法です。授業科目担当の先生の指示に従って提出しましょう。また、決められた文字数と提出期限等を守ってください。

4. 成績について

履修した授業科目には、すべて成績がつきます。それぞれの授業科目は評価基準により、授業科目担当の先生が評価します。成績によって、その授業の単位が取得できるかどうかが決まり、GPA の値にも影響します。GPA については9・10 頁をご参照下さい。

1) 成績の評価

5段階でSからFまでのアルファベットで示されます。SからCは合格です。Fは不合格となり、単位が取得できません。評点との対応は下記のとおりです。成績の開示は、MAS を通して行われます。

合格				不合格
S	A	B	C	F
90 点以上	80～89 点	70～79 点	60～69 点	59 点以下

2) 保証人への成績送付について

学期の成績が確定した時点で、保証人へ成績を通知します。保証人に変更（氏名・住所・電話番号等）が生じた場合は、その都度すみやかに学生部に届け出てください。

〈成績送付時期の目安〉

前期：9月下旬

後期：3月中旬

3) 成績に関する問い合わせについて

成績に関する問い合わせとは、成績評価の確認を行うものです。試験内容や採点(評価方法・評価の理由)についての説明や成績の再考・救済を求めるものではありません。例年、成績開示後、1週間を目処に成績問い合わせの期間を設けております。成績問い合わせの期間や方法は、成績開示時に改めて連絡します。

5. GPA について

本学では、各科目の平均値(Grade Point Average=以下「GPA」という)を算出しています。学生においては、自身のGPAから学習充実度を客観的に把握し、学修計画に反映することが求められます。

【 GPA 制度 】

授業科目ごとの成績評価に対して、GP(グレードポイント)を付し(例えば、5段階 A、B、C、D、E の成績評価に対して、それぞれ 4、3、2、1、0 のGP)、この単位当たりの平均を出し、その一定水準を卒業などの要件とする制度。したがって、個々の学生の学修時間当たりの学習到達度を表す指標となる数値で、履修した授業科目のGPに当該科目の単位数を乗じた値を履修した全科目について総計し、その値を履修した総単位数で除して算出する平均値をいうことから、学習到達度を表す指標の数値化の意味合いがあります。

本学では S・A・B・C・F の 5 段階で成績評価されます。100～90 を S、89～80 を A、79～70 を B、69～60 を C、～59 を F とする区分しています。GPA の計算は、公平性の観点から卒業要件科目に関してのみ行っています。GPA が 1 点台かそれ以下の場合は成績不良として、全体の単位取得状況と合わせて注意勧告、厳重注意などの指導対象となる場合があります。

本学における GPA の算出方法は以下の通りです。

GPA

$$\text{GPA} = \frac{4 \times \text{S の修得単位数} + 3 \times \text{A の修得単位数} + 2 \times \text{B の修得単位数} + 1 \times \text{C の修得単位数}}{\text{総履修登録単位数(「不可」の単位数を含む)}}$$

6. 卒業・学位授与について

卒業は、所定の単位数をとって、かつ卒業要件を満たしている方に、学位を授与します。卒業認定ならびに学位授与は卒業に必要な単位数（合計 124 単位）を取得しているかに加えて、本学の「ディプロマ・ポリシー」に示されている要件を満たしているかどうかを、必ず判定しています。

本学で卒業の認定を得た者には、「学士（国際コミュニケーション）」の学位が与えられます。

資料

・ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

（2017年度入学生から）

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を次のように定める。

（1）知識・理解

国際コミュニケーションにおける基本的な知識を体系的に理解するとともに建学の精神「他者理解」を深めるために体系的な学習と自己のアイデンティティと異文化理解、理論と行動を一体化させ、実践力を身に付けた者。

（2）汎用的技能

国際コミュニケーションに関する専門的な講義、演習、実習を通して得た情報や知識を分析し、言語、非言語、デジタルによるコミュニケーション・スキルに基づき、問題を解決に導く能力を身に付けた者。

（3）態度・志向性

建学の精神「他者理解」に基づき、倫理観に基づき他者と協調・協働し、社会に貢献することができる資質・能力を身に付けた者。

（4）統合的な学習経験と創造的思考力

4年間にわたる「講義」「演習」での学びや、国際コミュニケーション実習での実践、専門ゼミ科目等での発表等の活動を通して、知識の活用能力、批判的・論理的思考力、課題探求力、問題解決力、表現能力、コミュニケーション能力などを総合する力を身に付けた者。

（2020年度入学生から）

1 知識・理解

国際コミュニケーションに関する深い教養や英語を中心とした語学力を身につけ、かつ自国の文化や異文化への理解を深めた者。

2 汎用的技能

国際コミュニケーションに関する講義・演習・実習を通して獲得した知見に基づき、他者や他文化との同質性や差異を認識し、国際人としてさまざまな問題に対応できる能力を身につけた者。

3 態度・志向性

建学の精神「他者理解」に基づき、他者と協調・協働し、社会に貢献しようとする意識を持った者。

4 総合的な学習経験と創造的思考力

4年間にわたる講義・演習での学びや実習での実践、国際コミュニケーションに関するゼミ科目等での発表・報告等の活動を通じて、批判的・論理的思考力、問題解決能力、コミュニケーション能力などを総合的に身につけた者。

・カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

（2019 年以降入学生）

カリキュラム・ポリシーとは簡単に言えば、本学の建学の精神、教育理念、養成する人材像を実現するための基本的な考え方を具体化したもの。以下のような方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成している。

- 1 国際人として活躍できる教養を身につけるために、文化・社会・科学・スポーツ・総合科目からなる教養科目を実施する。
- 2 英語を中心とした語学について、「読む」「書く」「話す」「発表」「聞く」などの運用能力を総合的に修得するため、言語理解科目を実施する。
- 3 世代や文化の違いを乗り越えた高度なコミュニケーション能力、他者との協調性を修得するため、人間理解科目を実施する。
- 4 日本や他国の文化・社会・歴史に関する総合的知見を身につけるため、日本理解科目及び国際理解科目を実施する。
- 5 国際コミュニケーションに関する教養や語学力に基づき、国際的な事象に対する新たな知見や価値を生み出し、それを発信できるように、国際コミュニケーション関連ゼミを実施する。

（2016 年から 2018 年の入学生）

国際コミュニケーションの知識・理論の学習を通し、実践力を身に付けるための実習を通して国際的な視野をもち、自己や自国文化、及び多様な他者に対する理解力に裏付けられた技能・能力を身に付けることを目的として教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）を次のように定める。

- 1 国際人として活躍できる教養を身につけ、他者を理解するための基盤となる科目として基礎科目、専門性を高め、広い国際的な視野と深い国際的な見識を養うことを目的とする専門科目、理論と行動を一体化させ、実践力を養う専門実習科目、これまで学んだ知識や体験をプレゼンテーション、発表等を通して深めていく専門ゼミ科目を配置する。
- 2 専門科目は言語コミュニケーション科目、デジタルコミュニケーション科目、人間コミュニケーション理解関連科目、日本理解関連科目、国際事情理解関連科目の 5 分野により、自らのアイデンティティを明確にしながら国際舞台で活躍できる国際人を養成する科目を配置する。

3 国際人として必要なグローバル・リテラシー（国際対話能力）を重要視し、英語の一部については必修科目としての位置付け、さらにデジタルコミュニケーション科目で活用を中心とした科目配置を行っている。

4 倫理観、勤労観、職業観を身に付け、それぞれが直面するであろう様々な課題に柔軟に対応し、社会人・職業人として自立していくことができるようにするキャリア教育に関連する科目も基礎科目及び専門科目に配置した。シラバスの右上に「キャリア教育」と明記している科目を位置付けた。

5 カリキュラム・ポリシーをさらに具現化するため、履修モデルとして国際コミュニケーションコース、ビジネスコミュニケーションコース、心理コミュニケーションコースの3つを想定した。

6 カリキュラム・ポリシーを強化する意味で、卒業要件の教育課程以外にも免許・資格の教育課程を設置し、科目の一部を共通とし、キャリア教育の支援を行う。

7 これまで身につけた知識やコミュニケーション・スキルを統合し、問題の解決と新たな価値の創造につなげていく能力や姿勢を具現化するため、専門ゼミ科目においては学生全員が必ずゼミに所属し、ゼミ担当教員がきめ細やかな指導を行う。

・ アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

○求める人物像

① 国語、英語を中心に、高等学校卒業レベルの基礎学力を持ち、国際コミュニケーションに高い関心を持つ者。

② グローバル化の進む社会に発生する諸課題に対して、自らの考えを持ち、それを他者に伝えようとする意欲のある者。

③ 国際人として国際社会で活躍するための教養・思考力・主体性を持とうとする意欲のある者。

④ 英語を中心とした外国語を修得した上で、異文化理解を深めようとする意欲のある者。

(2020 年度以前の入学生まで)

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	教養：素養として広い教養を身に付け、社会と個人との関係を様々な角度からとらえられるようにする。基礎科目を積極的に履修し、理解を深める。
		専門：英語や情報については高等学校の復習を兼ねながら、基礎を固める。他の専門科目については履修系統図を意識して、科目を選択する。レポートの書き方、大学生としての授業の受け方など、この前期のうちに身に付ける。
		職業：豊かな感性を通して社会と個の関係を理解し、人間関係の構築と重要性を理解する。大学生としての在り方を考える。
	後期	教養：素養として広い教養を身に付け、社会と個人との関係を更に深くとらえられるようにする。基礎科目を積極的に履修し、理解を深める。
		専門：高等学校までの英語力をさらにブラッシュ・アップすると共に、基礎的な内容について十分に理解を深める。2 年次より始まる体験型の学習である実習に必要な背景などを深く学ぶように科目を選択し、理解を深める。
		職業：豊かな感性を通して社会と個の関係を理解し、人間関係の構築と重要性を理解する。大学生としての在り方を考える。
2 年次	前期	教養：素養として広い教養を身に付け、職業観・労働観、また奉仕の精神などを理解する。基礎科目を積極的に履修し、理解を深める。
		専門：海外研修を履修することにより異文化理解を深め、視野を広げる。また、他の実習も履修することにより「自分力」（己を知り、他者を理解）する。
		職業：「キャリア・デザイン」を通して「労働観」「職業観」を学び、職業と生活との関連性について深く理解する。「海外研修」などを通して体験を広める。
	後期	教養：素養として広い教養を身に付け、様々なコミュニケーション能力を高める。
		専門：英語については必修科目配当最終学期でもあることから、基礎力の最終確認ができるようにする。十分な基礎学力を身に付ける。
		職業：「キャリア・デザイン」を通して「労働観」「職業観」を学び、職業と生活との関連性について深く理解する。

3年次	前期	教養：卒業要件で3年次より必修となるゼミの活動を通して、発表やプレゼンテーション能力を開発する。
		専門：ゼミ（演習1）をコア科目に考え、専門性を高める。
		職業：「キャリア・デザイン」やゼミ活動を通して共創を体験し、問題解決能力を開発する。「インターンシップ」「ボランティア」などを通して体験を広める。
	後期	教養：ゼミの活動を通して、発表やプレゼンテーション能力を開発する。
		専門：ゼミ（演習2）をコア科目に考え、発表やプレゼンテーションに必要な知識を身に付ける。
		職業：「キャリア・デザイン」やゼミ活動を通して共創を体験し、問題解決能力を開発する。「インターンシップ」「ボランティア」などを通して体験を広める。
4年次	前期	教養：卒業要件で4年次でも必修となるゼミの活動を通して、発表やプレゼンテーション能力の開発とする。
		専門：ゼミ（演習3）をコア科目に考え、これまでの発表やプレゼンテーションを論文等へまとめるための基礎を固める、また、社会と個の関係を理論的に理解する。
		職業：ゼミ活動を通して共創を体験し、問題解決能力を開発する。グローバル・リテラシー（国際対話能力）を駆使したコミュニケーション・スキルを高める。
	後期	教養：卒業要件で4年次のゼミでゼミ論文集などの作成を通して、自分の考えを文章としてまとめいくなど、表現能力を高める。
		専門：ゼミ（演習4）をコア科目に考え、ゼミ論文等をまとめることで学士力総まとめとする。社会に出る直前としてゼミの活動を通して今後のキャリア・デザインなどについても強く意識する。
		職業：ゼミ活動を通して共創を体験し、問題解決能力を開発する。グローバル・リテラシー（国際対話能力）を駆使したコミュニケーション・スキルを高める。

(2021 年度以降の入学生から)

(1) 各ポリシーの評価指標

	入学前（入学直後） （アドミッション・ポリシー）	在学中 （カリキュラム・ポリシー）	卒業時（卒業後） （ディプロマ・ポリシー）
機 関 レ ベ ル の 指 標	・ 入学者選抜試験 ・ 調査書等の記載内容	・ GPA ・ 修得単位数 ・ 退学率 ・ 休学率 ・ 課外活動状況	・ 学位授与率 ・ 就職率、進学率 ・ 卒業生アンケート調査
ン 学 部 ） の 指 標 課 程 レ ベ ル （ 国 際 コ ミ ュ ニ ケー シ ョ ン	・ 入学者選抜試験 ・ 入学前オリエンテーション時の面接 ・ 志望理由書等の記載内容	・ GPA ・ 修得単位数 ・ 退学率 ・ 休学率 ・ 授業評価アンケート ・ 外部試験実績 ・ 課外活動状況 ・ 海外留学実績 ・ インターンシップ参加状況	・ 学位授与率 ・ 就職率、進学率 ・ 免許、資格取得率 ・ GPA ・ ゼミの評価
指 標 科 目 レ ベ ル の	・ 入学者選抜試験	・ 成績評価 ・ 授業評価アンケート ・ 学習ループリック	

(2) ディプロマ・ポリシーに関する具体的な評価方法 (アセスメント・チェックリスト)

	評価方法	対象者	実施時期	検証
機 関 レ ベ ル	学位授与率	4 年生	卒業時	自己点検・評価委員によって実施
	就職率・進学率	4 年生	卒業時	
	卒業生アンケート調査	卒業生	卒業後 1 年経過から 3 年(年 1 回)	
課 程 レ ベ ル	学位授与率	4 年生	卒業時	ディスクロージャー及び自己点検・評価委員によって実施
	就職率・進学率	4 年生	卒業時	
	免許、資格取得率	4 年生	卒業時	
	GPA	4 年生	卒業時	
	ゼミの評価	4 年生	卒業時	
	外部試験実績	全学年	各年度末	
	授業評価アンケート	全学生	各期末	
	課外活動状況	全学生	各年度末	
	海外留学実績	全学年	各年度末	
	インターンシップ参加状況	全学年	各年度末	
科 目 レ ベ ル	成績評価	全学生	各期末	各科目担当教員によって実施
	授業評価アンケート	全学生	各期末	
	学習ループリック	全学生	各期末	

・ナンバリング コード

(2019 年以降の入学生)

①基礎科目

BR10001	歴史と文学
BR10002	伝統と文化
BR10003	倫理学
BR10004	現代社会論 1 (日本国憲法を含む)
BR10005	現代社会論 2 (政治)
BR10006	現代社会論 3 (ビジネス)
BR10007	現代社会論 4 (法と生活)
BR10008	環境と科学
BR10009	情報処理入門
BR10010	情報リテラシー
BR10011	こころとからだ
BR10012	スポーツ 1

BR10013	スポーツ 2
BR10014	スポーツと健康
BR10015	基礎英語 1
BR10016	基礎英語 2
BR10017	中国語 I
BR10018	韓国語 I
BR10019	フランス語 I
BR10020	キャリア・デザイン 1
BR10021	キャリア・デザイン 2
BR10022	キャリア・デザイン 3
BR10023	キャリア・デザイン 4
BR10024	キャリア・デザイン 5
BR10025	キャリア・デザイン 6

②言語理解科目

BR20031	English Reading & Writing 1
BR20032	English Reading & Writing 2
BR20033	English Listening & Speaking 1
BR20034	English Listening & Speaking 2
BR20044	Advanced English Reading & Writing 1
BR20045	Advanced English Reading & Writing 2
BR20046	Advanced English Listening & Speaking 1
BR20047	Advanced English Listening &

	Speaking 2
BR20063	通訳英語
BR20037	試験英語 1
BR20038	試験英語 2
BR20052	試験英語 3
BR20053	試験英語 4
BR20035	Communication English Skills 1
BR20036	Communication English Skills 2
BR20048	Communication English Skills

	3
BR20049	Communication English Skills 4
BR20050	Communication English Skills 5
BR20051	Communication English Skills 6
BR20065	英語討論
BR20054	実務英語 1
BR20055	実務英語 2
BR20066	実務英語 3
BR20056	英語学概論
BR20057	英語文学
BR20067	英書講読 1

BR20038	英書講読 2
BR20069	Academic Writing
BR20039	中国語 II
BR20058	中国語 III
BR20059	中国語 IV
BR20040	韓国語 II
BR20060	韓国語 III
BR20061	韓国語 IV
BR20041	フランス語 II
BR20062	フランス語 III
BR20063	フランス語 IV
BR20042	日本語 I
BR20043	日本語 II
BR20064	日本語 III

③人間理解科目

BR30066	デジタルコンテンツ演習 1
BR30067	デジタルコンテンツ演習 2
BR30068	モバイル・コミュニケーション
BR30069	異文化コミュニケーション
BR30070	プレゼンテーション技術
BR30071	非言語コミュニケーション論
BR30072	ポップカルチャー論
BR30073	社会学概論
BR30074	教育心理学
BR30075	社会心理学

BR30076	教育社会学
BR30077	社会福祉
BR30078	ビジネス・コミュニケーション
BR30079	教職概論
BR30080	教育原理
BR30081	教育行政学
BR30082	道德教育の指導法
BR30083	特別支援教育
BR30084	インターンシップ
BR30085	ボランティア

④日本理解科目

BR40086	日本文化論 1
BR40087	日本文化論 2
BR40088	日本文化論 3
BR40089	日本社会論 1（政治と歴史）

BR40090	日本社会論 2（法と社会）
BR40091	日本社会論 3（思想と宗教）
BR40092	日本の伝統文化

⑤国際理解科目

BR50093	国際コミュニケーション
BR50094	国際関係
BR50095	国際政治史
BR50096	国際金融
BR50097	国際文化交流
BR50098	地域文化事情 1（韓国）

BR50099	地域文化事情 2（中国）
BR50100	地域文化事情 3（アジア）
BR50101	地域文化事情 4（ヨーロッパ）
BR50102	地域文化事情 5（北アメリカ）
BR50103	地域文化事情 6（オセアニア）
BR50104	海外研修

⑥専門ゼミ科目

BR60105	演習 1
BR60106	演習 2

BR60107	演習 3
BR60108	演習 4

⑦学則科目以外で中学校・高等学校（英語科）教諭一種免許状にかかわる科目

BR70201	英語科教育法Ⅰ
BR70202	英語科教育法Ⅱ
BR70203	英語科教育法Ⅲ
BR70204	英語科教育法Ⅳ
BR70205	教育課程総論
BR70206	総合的な学習の時間の指導法
BR70207	特別活動論
BR70208	教育方法

BR70209	生徒指導論
BR70210	教育相談
BR70211	進路指導
BR70212	教育実習Ⅰ
BR70213	教育実習Ⅱ
BR70214	教育実習Ⅲ
BR70215	教職実践演習（中・高）

⑧学則科目以外で日本語教員養成課程にかかわる科目

BR80301	日本語教育史
BR80302	言語理解論
BR80303	言語学概論
BR80304	日本語文法論
BR80305	日本言語論
BR80306	日本語学概論
BR80307	日本語学演習
BR80308	日本語音声学
BR80309	日本語語彙研究
BR80310	日本語表現法
BR80311	日本語教育方法論
BR80312	日本語教授法
BR80313	日本語教授法演習
BR80314	日本語教育実習

(2016年から2018年の入学生)

B1	科目名	B2	科目名
B10001	歴史と文学	B20023	English Reading
B10002	伝統と文化	B20024	English Writing
B10003	倫理学	B20025	Oral English
B10004	現代社会論 1 (日本国憲法を含む)	B20026	Advanced English Reading
B10005	現代社会論 2	B20027	Advanced English Writing
B10006	現代社会論 3	B20028	Advanced Oral English
B10007	現代社会論 4	B20029	Integrated English
B10008	環境と科学	B20030	English Grammar
B10009	生活と自然	B20031	Public Speaking
B10010	情報処理入門	B20032	Communication English
B10011	こころとからだ	B20033	試験英語 1
B10012	スポーツ 1	B20034	試験英語 2
B10013	スポーツ 2	B20035	Communication English Skills 1
B10014	スポーツと健康	B20036	Communication English Skills 2
B10015	英語コミュニケーション	B20037	Communication English Skills 3
B10016	中国語コミュニケーション	B20038	Communication English Skills 4
B10017	キャリア・デザイン 1	B20039	Communication English Skills 5
B10018	キャリア・デザイン 2	B20040	Communication English Skills 6
B10019	キャリア・デザイン 3	B20041	英語討論
B10020	キャリア・デザイン 4	B20042	実務英語 1
B10021	キャリア・デザイン 5	B20043	実務英語 2
B10022	キャリア・デザイン 6	B20044	ビジネス英語
		B20045	英語学概論
		B20046	英米文学史
		B20047	英書講読
		B20048	Academic Writing
		B20049	中国語 I
		B20050	中国語 II
		B20051	中国語 III
		B20052	韓国語 I
		B20053	韓国語 II
		B20054	フランス語 I
		B20055	フランス語 II
		B20056	日本語 I

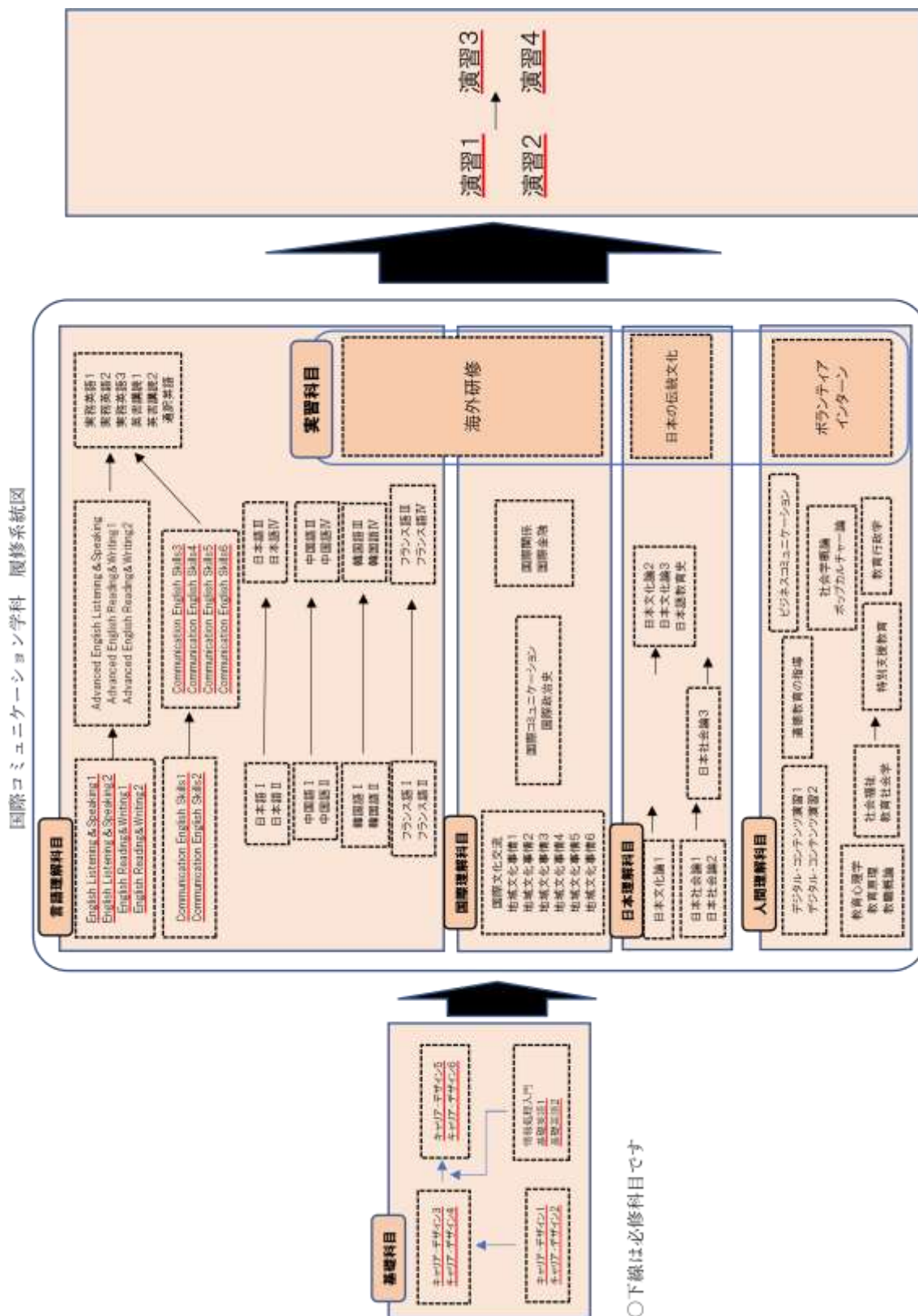
B20057	日本語Ⅱ
B20058	日本語Ⅲ

B3	科目名	B4	科目名
B30059	情報リテラシー	B40067	コミュニケーション概論
B30060	デジタルコンテンツ演習 1	B40068	マスコミュニケーション概論
B30061	デジタルコンテンツ演習 2	B40069	異文化コミュニケーション
B30062	デジタルコンテンツ演習 3	B40070	プレゼンテーション技術
B30063	デジタルコンテンツ演習 4	B40071	スピーチ・コミュニケーション
B30064	モバイル・コミュニケーション	B40072	非言語コミュニケーション論 1
B30065	マルチメディア表現	B40073	非言語コミュニケーション論 2
B30066	情報機器利用プレゼンテーション演習 2 単位	B40074	演劇表現論
		B40075	メディア表現論
		B40076	ポップカルチャー論
		B40077	社会学概論
		B40078	心理学概論
		B40079	カウンセリング
		B40080	教育心理学
		B40081	発達心理学
		B40082	社会心理学
		B40083	教育社会学
		B40084	社会福祉
		B40085	老人福祉
		B40086	健康と医学
		B40087	リスク・コミュニケーション
		B40088	ビジネス・コミュニケーション
		B40089	教職概論
		B40090	教育原理
		B40091	心身障害児教育Ⅰ
		B40092	心身障害児教育Ⅱ

B5	科目名	B6	科目名
B50093	日本文化論 1	B60101	国際コミュニケーション
B50094	日本文化論 2	B60102	国際関係
B50095	日本社会論 1	B60103	国際政治史
B50096	日本社会論 2	B60104	日中交渉史
B50097	日本社会論 3	B60105	国際経営
B50098	日本語教育史	B60106	ビジネス・マネジメント
B50099	教育行政学	B60107	国際金融
B50100	道德教育の指導法	B60108	国際文化交流
		B60109	地域文化事情 1
		B60110	地域文化事情 2
		B60111	地域文化事情 3
		B60112	地域文化事情 4
		B60113	地域文化事情 5
		B60114	地域文化事情 6
		B60115	地域文化事情 7
		B60116	地域文化事情 8

B7	科目名	学年	B8	科目名	学年
B70117	海外研修	2・3	B80124	演習 1	3
B70118	インターンシップ 1	2・3	B80125	演習 2	3
B70119	インターンシップ 2	2・3	B80126	演習 3	4
B70120	ボランティア 1	2・3	B80127	演習 4	4
B70121	ボランティア 2	2・3			
B70122	日本の伝統文化 1	3・4			
B70123	日本の伝統文化 2	3・4			

(2019 年以降の入学生)



(2016年から2018年の入学生)

